

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 6月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2275500631
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画
事業所名	グループホーム サンシティはいばら
所在地 (電話番号)	〒421-0413 静岡県牧之原市仁田563番地1 TEL 0548-24-0101 FAX 0548-24-0105
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年4月28日

【情報提供票より】(平成20年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,100 円	その他の経費(月額)	9,900 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,600 円	

(4) 利用者の概要(平成20年 4月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 77.7 歳	最低	54 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	榛原総合病院、牧之原歯科医師会
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

榛原町(牧之原市)の山間の茶畑に囲まれた長閑な風景に接すると、自然とゆったり、穏やかに生活ができると思える場所に建てられたグループホームである。デイサービスと併設され、地域の人達との交流とふれあいの中でホームでの生活が営まれている。まず、玄関を入ると元気で明るい声が聞こえてくる。利用者と職員、一家族のように溶け込んでいる。管理者はじめ職員の職務に対する向上心と真摯な勤めを垣間見たときこの事業所の持つ良さが再認識された。緻密に計画された介護計画、それに伴うケアサービスが行き届き、家族等との連絡、報告は勿論、地域との共存を図るべく防災、奉仕作業なども行われ、地域密着型のホームが形成されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、改善計画のもとに取り組みがされ改善されている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいるほか、自己評価の実施に当たっても全職員参加のもとに行なわれ、サービスの質の向上に努めている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年3月に初めて運営推進会議を立ち上げることができ、事業所からの報告とともに参加メンバーからの意見、要望等をミーティングにかけてサービスの向上につなげている。今後、定期的開催と充実が望まれる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	自分の思いや意見を上手に表すことの出来ない利用者であっても、その言動から本人の意向を推測し、家族との連絡を密にして対応している。また、意見・苦情に対しては職員同士の話し合いにより解決策を見出している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設において夏祭りを主催して地域住民にも参加を呼びかけたり、地区の夏祭りに参加するなど地域との交流を図っている。また、地区の奉仕作業(草取り、川の掃除など)にも参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを意識して地域社会との関わり合いを理念に掲げ、地域の中でその人らしく生活できる環境を目指している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、ホーム内の目のつくところに掲示したり、ミーティングの場などにおいても理念の共有化を図るための話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設において夏祭りを主催して地域住民にも参加を呼びかけたり、地区の夏祭りに参加するなど地域との交流を図っている。また、地区の奉仕作業(草取り、川の掃除など)にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいるほか、自己評価の実施に当たっても全職員参加のもとに行なわれサービスの質の向上に努めている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年3月に初めて運営推進会議を立ち上げることができ、事業所からの報告とともに参加メンバーからの意見、要望等をミーティングにかけてサービスの向上につなげている。	○	まだ1回のみ開催となっているが、運営推進会議を「事業所の質の向上を図り、地域での事業運営を円滑にするためのチャンス」と捉え、今後は定期的に(2ヶ月に1回)開催する努力が望まれる。

静岡県 グループホーム サンシティはいばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員との連絡は密に行われており、相互に情報交換が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での暮らしぶり等を記したミニ新聞を毎月発行して金銭報告とともに家族に送付したり、特に体調の変化や問題が生じたときにはケア日誌以外に特別にノートを作成して、詳細を家族等に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自分の思いや意見を上手に表すことの出来ない利用者であっても、その言動から本人の意向を推測し、家族との連絡に当たっている。また、意見・苦情に対しては職員同士の話し合いにより解決策を見だしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしており、退職する場合には1ヶ月前に申し出をさせ、その間を引き継ぎ期間として利用者へのダメージにならないよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の場として、ホーム内外の研修には職員が積極的に参加できる機会を作って参加させているほか、金曜日には所属の看護師が講師となり、緊急時の対応などの勉強会が開かれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会議の中での交流のほか、全国組織の同業者ネットワークに加入して情報を入手し質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族によるホームの見学には生活歴・性格・希望など細部にわたり話し合った後、利用者本人がホームの日常生活の雰囲気馴染むよう時間をかけた支援を行っている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や経験則に照らした関係づくりに配慮し、喜怒哀楽を共する中から先達である利用者本人から学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの個性に合わせ、居室であったり風呂場であったりと、話しやすい場所で思いや希望を聞いている。また、表情で出来るだけ思いを把握しようと職員間でよく話し合いを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意見もよく聞き、職員同士よく話し合い、利用者にあった介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに更新を行い、利用者の状態に変化があった時はその都度、職員で話し合い計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスと一緒に納涼祭等諸行事を通じて交流している。ドライブで花見に行ったり、外食にも出かけている。また、家族に代わって通院介助や受診も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、本人及び家族の希望を入れ、かかりつけ医とホーム側の関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。また、応援看護師の協力体制も整い、定期的に受診介助も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族ともかかりつけ医とも話し合い、同意書やマニュアルも作成されて家族の同意書も得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた言葉使い、使って傷つく言葉に注意しており、プライバシー尊重の精神は全職員に浸透している。書類は鍵のかかる場所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や入浴、趣味など、その日にしたい事等、利用者の状態を見ながら声をかけ、希望に合わせて利用者本位に対応した支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いたり料理の本で選んでもらったりして利用者の好みに合った食卓としている。また、おしぼりや、畑で取れた野菜の下処理、食後の片付けなどを一緒に行うなど食事が楽しみになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝9時半から夕食までの時間に入ってもらっている。朝一番を楽しみにしている利用者もあり、また、入浴好きでない利用者にも上手に声かけをして、週2回以上を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習慣や生活歴により、利用者の出来る事を手伝ってもらっている。書く事の得意な利用者は毎食後献立を書き残し、稲の藁で上手に縄を編んで皆に喜ばれたり、大きな声で歌を唄う人など、のびのびとして生活を楽しんでいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関横のベンチで、思い思いに日光浴をする人、ホーム周辺の散歩や、畑で作業する人、買い物や外食など希望に沿って外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることでのデメリットを職員全員が認識しており、日中は玄関の鍵はかけずに自由に入出入りできる暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	貯水の備えはある。火災、防災訓練は消防署の協力もあり年2回行っているほか、地域の防災訓練にも参加するなど住民の協力も得られる体制が構築されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は一週間ごとに作成され、日々の摂取カロリーが表示されている。また、一人ひとりにあった食事形態と量や水分量もチェックされ記録に残されている。月に一度体重測定も行い、栄養バランスを考えた食事作りを支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南面の窓は見晴らしもよく、緑の茶畑が見渡せ気持ちよい空間である。食卓には季節の花が飾られ、ひとつの花からおしゃべりも弾み、壁面にも折り紙や、外出時の笑顔いっぱいの写真も貼られ、暮らしよい共用空間が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には孫の写真あるいは家族と一緒に写った写真やなじみのある物、文机、マスコットなど、それぞれに大切にしている物の中で、穏やかに過ごしている。ベット、布団等利用者に合わせた仕様になっている。		